



(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

～親子で話そう 今日の出来事 一日一回！～

わかば

第

114
号

2006

平成18年 2月発行



謎の八マーク発見!

答志島では、倉庫や家の戸や車まで
⑧が黒く書かれていました。「八幡
神社」の大漁祈願祭で用いた神聖
な墨で⑧を書いて、大漁や家内安全
を祈願しているのだそうです

INDEX

- 02** 寝屋子（ねやこ）制度は次世代育成への地域の知恵
- 04** 歌はともだち
歌い継がれて38年
- 06** 平成17年度東海・北陸・近畿地区
青少年健全育成活性化方策
研究協議会報告

- 07** 少年の主張全国大会
～わたしの主張2005～ 報告
- 08** 「地域のおじさん、おばさん運動」の効果的な実践を！
青少年育成者・団体表彰
編集後記

〈編集発行〉

(財)三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内
TEL : 0598-22-4911
FAX : 0598-23-7792
URL : <http://www.mie-cc.or.jp>

寝屋子（ねやこ）制度は 次世代育成への地域の知恵

☆中学卒業と同時に、「親元から一歩距離を置いて」将来を考える若者たち☆

—鳥羽市答志島—

三重県鳥羽市答志島には、江戸時代から百年以上は続いている「寝屋子制度（鳥羽市指定無形文化財）」があります。答志島の男子は中学校卒業と同時に毎日、自宅と「寝屋親」の家を往復します。自宅で夕食を食べた後に「寝屋子」として「寝屋親」の家へ行き、朝食は自宅で食べます。現在、答志島には13戸の寝屋親宅があります。

「寝屋親」は“地域社会で少年期から青年期を育てる”人材育成の役割を担います。人と話すのが苦手な人も得意な人も、非常に個性的な人もそうでない人も、独立して家庭を持っても「寝屋子」と「寝屋親」の関係は続きます。7年前から「寝屋親」を引き受けた山下猛さん（39歳）と「寝屋子」の井村亮さん、中村真敏さん、川原健吾さん、山下純一さんにお話を伺いました。



Q：寝屋子達を引き受けられた経緯を教えてください。

山下さん：答志島は漁業で生計を立てるから、跡取りの漁師を育てることは地域にとって大事なこと。私は水産加工業ですが、漁師は共同作業なので人間関係が一番ですね。それに、ここでは島の祭りや冠婚葬祭、海難事故など多くのことで助け合うことが自然体です。家を壊したり建てたりするのも、島民が協力しあいます。答志島では助け合うというのが当たり前のこと。

私も結婚するまで「寝屋親」の家で「寝屋子」として世話になりながら、一人前の男として躾られました。ここでは男は誰もが「寝屋子」として世話になります。なんで寝屋子になるのか、そんなこと考え無かつたし、島がある限り続くんちゃうかな。

私に「寝屋親」をしないか、と話をもらった時には非常に光栄なことと嬉しかった。ですが責任が重いので、私等にできるだろうかと妻と話し合いました。しかし、私も「寝屋親」に育ててもらったおかげで今があるので、私等にできるだけのことはさせてもらおう、と覚悟を決めました。

島は土地が狭いので我が家でも、1階は私の親(老夫婦)、2階は私たちの家族(若夫婦)、3階は寝屋子たちの生活の場です。現在は、中学卒業と同時にここへ来て、今年1月に成人式を終えたばかりの20歳の若者が4人。すでに親の仕事を継いでいます。毎晩、ワイワイと女の子やタレントの話など、世間話をしてます。時にはまじめに将来のことを話したり、高校生の時は勉強もしてましたよ。

Q: 寝屋子としては、日々どんな生活ですか。

Aさん: 今は今で朝が早い仕事（漁師）で忙しいけど、高校へ通ってる時は忙しかったよな。朝は始発の6時55分の定期船やと、45分位に起きてダッと家まで走ってダッと歯を磨いて着替えて、またダッと船に乗って行く。飯も食わんと行く感じ。当時、帰りは最終17時25分の船に乗らないかん。クラブ活動でゆっくりできへん。寄り道もあきらめたし、いろいろと苦労があった。でも島では毎晩退屈することないよな。絶対楽しい。今度Bが結婚する。

Bさん: そう、寝屋親の山下さんに仲人になってもらいます。嫁さん貰うので、ここを出て行くけど、僕らは一生、山下さんの寝屋子の友や。

Aさん: 今までに1回だけ喧嘩したな。結婚のことを黙ってたから。

Bさん: 黙ってないって、みんなが揃った時に言うつもりやったのに…

山下さん: これからが大変やで、家族を守っていくんやから。

Q: ご婚約おめでとうございます。ところで、寝屋親の山下さんに叱られたことはありますか。

Aさん: 法を犯した時。20歳まではタバコは絶対にダメって。それと、夜、酒を飲んでわあわあ騒いどったら奥さんに「やかましい、うるさいっ」て。

山下さん: 高校卒業して働いていたら一人前なんだけど、島は家が建て込んで火事が一番怖い。それに、人に迷惑をかけることは絶対にダメ。

Q: 寝屋子になることへ、ためらいは無かったようだけど、何ですか？

Aさん: 何でって、今までそうやってきたやん。学校へ入るような感じ。

Bさん: （寝屋子として寝屋親の家へ）もう入るってことが分かってるし。

Cさん: 義務教育と同じような感じ。

Aさん: 中学卒業したら高校へ行くのも寝屋子に入るのも青年団に入るのも一緒。皆一緒。普通のこと。で、こんどは消防団へ入るのも皆一緒のこと。

山下さん: 消防団へ入るのは強制とは違うので「いやや」と言われたら、それで終わるんだけど、島に残っている人は皆が入ってくれる。青年団は島の祭りの担い手です。

Bさん: 寝屋子って、よそでもすりゃええのにな。

Cさん: うん、そう、そう。

答志島（平成17年12月現在、戸数493戸、人口2,031人）で継承されている寝屋子制度を取材するためにお伺いした寝屋親の山下さんは、自らが寝屋子であった経験を通して、若者が自立していく過程には、地域の先輩からの有形無形の支援が必要であることを知り尽くしているように拝察しました。寝屋子という居場所は一人ひとりの育ちの場になり、存在を認め合うことに役立っていました。寝屋子のしくみは、管理されない空間である故に、若者には居心地が良いのでしょうか、寝屋親の元で自分のあるべき姿を見出しながら、大人としての思考力や判断力を育んでいるように感じました。

（文責：中西 智子）

♪ 歌はともだち…♪

歌い継がれて38年

— 津児童合唱団 —

津市役所の目の前、津城址の杜に毎土曜日、堀を渡って子どもたちの歌声が流れてくる。声の主は聖ヤコブ幼稚園をお借りして練習に励む津児童合唱団の子どもたち。38年も続くこの合唱団の魅力はどこにあるのかを探りに練習場を訪ねました。創立以来指導を続ける代表の川合さんにお話をうかがいました。



Q: ざっと数えると40人ほどですが、メンバーは他にもいるんですか？

名簿の上では60人ほど在団していますが、中学生は部活と重なってほとんど来られないんですよ。でも、やめたくないというので籍はあるんです。テスト前で部活がないときなど突然歌いにきたりしてびっくりするんですよ。

Q: 学年もいろいろのようですね？ 女の子がほとんどですか？

現在は小学2年生から高校生までいますよ。男の子は今は4人ですね。学校もまちまちですよ。

Q: 歌の上手な選ばれた子どもたちですか？

とんでもありません。歌うことが好きならだれでも入れます。歌うことよりもむしろ学校とは異なる新たな友達を求めてやってくるという感じの子も結構いますよ。



Q: 合唱団が設立されたのはどんな経緯だったのですか？

元は、NHK津放送児童合唱団という放送局の合唱団だったのですが、局の方針で解散することになり、それならと団員を再募集して一般合唱団として再出発したのです。スポンサーはありませんから、スタッフの情熱と保護者の支援でここまでやってきました。

Q: それ以来38年間も続いているわけですが、団員にとってこんなにも続いてきたこの合唱団の魅力ってどこにあるのでしょうか？

合唱を通して培われた友達関係やハーモニーの中に身を置く居心地よさということではないかと思います。指導者はほとんどがこの合唱団の卒団生なんです。それに親子二代に渡る団員も何人かいますよ。兄弟姉妹が少ない時代ですから、家族のような感じられる雰囲気がきっとあるのでしょうか。



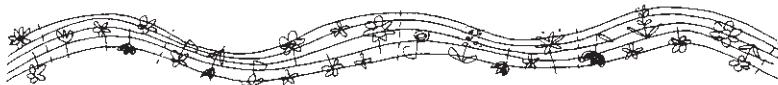
Q: 活動の範囲も広いですし、指導者は大変ですね？



合宿練習や、県外への演奏旅行もありますし、様々な行事に招待されることも多いですから活動は活発ですね。でも、保護者の方の付き添いとかは一切お断りしているんです。団員は家族という立場ですから大きい子が小さい子の面倒をきちんと見るのが当たり前ということでやっています。保護者の方々が我々スタッフを信頼して子どもたちを出してくださるのが本当に嬉しいですね。

Q: 先生は、「歌が心を育てる…」という強い信念をお持ちだと…

ええ、長年子どもたちと一緒に歌い続けてきて、本当にそう思いますね。歌に慰められ、歌から勇気をもらい、歌に励まされ…そんな事例はいっぱいありますよ。ましてや、合唱を通して心を通わせた絆はみんなの心の支えになっていると信じています。卒団した高校生や大学生が合宿になると何人かが訪ねてきますよ。そんな気持ちが本当に嬉しいですね。



市民音楽祭に向けて「唱歌のメドレー」の練習が続いている。小さい子のそばに大きい子が寄り添い、楽譜を指で示しながら一緒に歌っています。休憩時間になると大きい子どもたちの周りに集まってきては楽しいおしゃべりが続いている。スタッフはやさしいまなざしで見守っています。ああ、これが子どもたちにとって気持ちのよい居場所なんだ、このことが長続きの魅力なんだと納得しながら練習場を後にしました。

すでに色づいた銀杏の街路樹に見とれる私の耳元に、子どもたちの「うさぎ追いしかの山…」と心地よい唱歌のメロディーが流れました。

(文責：中西 智子)

平成17年度 東海・北陸・近畿地区 青少年健全育成活性化方策研究協議会報告



(社)青少年育成国民会議 上村 文三副会長による開会あいさつ

平成17年11月26日(土)に、伊勢シティホテルにおいて、「平成17年度 東海・北陸・近畿地区 青少年健全育成活性化方策研究協議会」が開催されました。

県内外から約120名の参加者が集い、「聞こう！知ろう！わかものの声！」というテーマのもと、現代の若者の意見発表に耳を傾け、様々な実践事例を交えて活発な意見交換がなされました。

わがものの声発表

「今、自分が考えること、大人に考えて欲しいこと」

県内の中高生6名が将来の夢に向かって自由に発表しました。会話が弾んでくると、自分の経験の中で感じた不満や喜びなどが次々と飛び出し、単に不満を「怒り」の形でぶつけるだけでなく、冷静に物事を考えて矛盾点をとらえ、自分なりに解決方法を見出して、大人たちに提示していたことが印象的でした。また自分が社会の中で責任を持ちながら、どうやって自分らしく生きていくのかを真剣に考えている姿が垣間見られ、とても頼もしく感じられました。



自分の思いを訴える若者たち

分科会発表ピックアップ1

公民館 宿泊体験

『公民館での宿泊体験活動を通した地域ぐるみの子育て』

石川県 輪島市教育委員会生涯学習課社会教育主事 細谷 樹史

輪島市では公民館重点活動として、学校・家庭だけではできない体験活動・地域とのつながりづくりの機会拡充を推進している。平成14年から学校週5日制の理念に対応した活動として、一部の公民館において小学3～6年生を対象に、公民館体験合宿事業が開始された。少子化・核家族化した現代において、異年齢集団生活（擬似大家族）を体験することにより、自主性や社会性を育て、公民館ならではの地域の人材を活用した体験をしてもらうのがねらいである。公民館主事が地域の意見を聞きながら企画・運営し、地域団体（青壮年団・婦人会等）や大人たちが子どもたちの生活をサポート、そして公民館活動で活躍する地域の指導者が体験活動を指導するなど、地域をあげて運営に協力している。

活動の中身は地域性に応じて様々であるが、共同生活・集団行動・体験活動を通して、子どもたちの心を育む有意義な実践活動となっている。また

「地域の大人が世話をしそぎてしまった」という反省点はあるものの、多くの地域の大人から様々な協力を得ることができ、結果として地域全体で子どもたちを育てる意識が高まった。現在では複数の公民館が連携した地域間交流合宿も行っている。

平成16年からは、公民館でこれまで実施してきた社会教育事業を統合再編し、地域づくりリーダー養成事業を行っている。これは社会教育を「住民へのサービス」から「地域づくりのための投資」へと発想転換し、各自の生涯学習の成果を自己実現にとどめずに、地域社会へ還元し、地域づくりや公民館体験合宿事業の指導者として活躍してもらいうのがねらいである。

輪島市では今後この公民館体験合宿事業を、より低年齢の子どもたちや、その親にも関わりを広げながら、公民館を地域交流の重要な拠点として活動を進めていきたいと考えている。

分科会発表ピックアップ2 ●●●●●●●●

中学生 事業参画

『地域教育協議会支援事業（すこやかネットプロジェクト事業）について』

大阪府 東大阪市縄手南中学校区地域教育協議会会长 森田 明彦

大阪府（大阪市内を除く）では地域での総合的教育力向上を図るため、中学校区単位で地域教育協議会（すこやかネット）を立ち上げている。地域教育協議会では、学校・家庭・地域が協働し、総計170名以上の幅広い方々を構成員として、学校と地域の橋渡しをしている。当協議会の年間事業としては、学校の運動会支援や地域盆踊り、祭礼時・長期休暇時パトロールなどがあり、一部事業については中学生をスタッフとして参画してもらっている。

中学生参加のきっかけは、以前中学校が荒廢していた時期に、やんちゃな中学生を、当時中学生の参加が皆無であった地域活動にスタッフとして参加させたことである。ところが彼らに役割を与えたところ、企画や運営に興味を持ち、一生懸命仕事に取り組んでくれた。ともに働いた地域の人たちとの会話も生まれ、徐々に彼らの日頃のあいさつや表情に変化が見え始めてきた。

最初は半強制的に参加させていた中学生スタッフであるが、他の中学生からも参加したいという声が上がったのを受け、自主的に参加したい中学

生を公募したところ、多くの手が挙がった。また中学生の自主運営として、一部の企画、立案を任せるなど、「参加」から「参画」への動きも生まれた。友だちが友だちを呼び、中学生スタッフは現在総計100名を超えるに至っている。

中学生スタッフに対するアンケートでは、ほとんどの子が「想像していたよりよかったです」「おもしろかった・楽しかった」と回答している。また「きつい」と答えている子が多いにもかかわらず、ほとんどが「次回も参加したい」と感じていることにも注目したい。アンケートに答える中学生の子の目はどの子も輝いており、生き生きとしていたことが非常に印象的である。

地域教育コミュニティ活動に中学生を積極的に参画させることによって、学校と地域と子どもたちとのより良い関係ができ、非行未然防止にも役立っている。今の子どもたちが大人になったときに、自分が育った地域を自慢できるような環境を作り、さらにはその子どもたちに受け継がれていくよう努めていきたい。

少年の主張全国大会～わたしの主張2005～ 報告



全国大会で堂々と主張する西崎さん

ることを自分自身の言葉で堂々と主張発表を行いました。三重県代表の西崎和也さんは中部・近畿ブロックの代表に選ばれ、全国大会では青少年育成国民会議会長奨励賞を受賞しました。

西崎さんは県大会以降、聞いている人に主張が伝わるように、全文を暗記し家庭においても学校においても、繰り返し読むなど猛練習をされたそうです。大会後の感想としては「まさか全国大会まで進めるとは思っていなかったので、

平成17年11月13日（日）東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、少年の主張全国大会が開催されました。全国の中学生54万2032人から各都道府県大会を経て選ばれた13名の中学生が約800名の聴衆を前に、学校や日常生活で感じていることや考えてい

嬉しい反面、すごく緊張した。でも本番は練習の成果を発揮することができ、それなりに満足のいく主張ができた」と納得していました。また指導された先生は「舞台が大きくなってしまっても緊張感に打ち勝ち、練習以上の堂々たる話し振りで臨めたことがすばらしかった。県大会、全国大会と自分の考え方や思っていることをたくさん的人に知ってもらえる機会に恵まれたことは、本人にとって大変貴重な経験になった」と述べられていました。

各ブロック代表者も全国54万人の応募者から選ばれただけあって、テーマもさまざまで思わず聴き入ってしまうほどの迫力と同時に表現力の豊かさには驚きました。文章の構成、抑揚、声の張りといった表現の方法も大切かもしれませんのが、発表者の背景にある生育歴や生き方、そして自分自身の思いや願い、考え方などをどれだけ伝えることができたかが、審査の重要なポイントのように感じました。

子どもを犯罪から守る
緊急アピール

「地域のおじさん、おばさん運動」の 効果的な実践を！



全国各地で子どもが殺害されるという痛ましい事件が立て続けに発生しています。子どもを狙った犯罪の残虐性と、かけがえのない子どもの命を奪われた家族や親族の方々の無念さを思うと、絶対に許し難い犯罪として弾劾し、再発防止のための総力をあげた対応をしなければなりません。

このような事件が起こると、子どもたちにとって大切な外遊びの機会が奪われ、地域とのかかわりの希薄化や人間不信に陥るなどの影響が懸念されます。

こうした事件を未然に防ぐべく、各地で「子ども110番の家」を設けたり、「パトロール運動」や、郵便配達や商店、宅配便などの協力を得た「地域巡回活動」などが考案、実施されるようになりました。

幼い子どもたちの尊い命を守るために、現在、青少年育成国民運動として展開している「地域のおじさん、おばさん運動」のより効果的な実践と充実を図っていただくようお願いします。

三重県内の実践状況は？

県内各地域でも「子ども110番の家」「SOSの家」設置やパトロール運動、声かけ運動などが盛んに行われています。活動をより効果的にするために、様々な工夫をされています。

- ・「110番の家」を記した危険マップを作成し、電子ファイルとして配布
- ・「110番の家」に協力いただいている方々でワークショップを行い、より密接な交流を図る
- ・パトロール時の腕章、ジャンバー等の着用
- ・マグネットシール、青色回転灯装備の巡回車

各地域とも「安全」かつ「安心」な街づくりを目指し、積極的に活動しています。

各地の活動情報や問合せは、(財)三重こどもわかもの育成財団までお寄せください。

（問い合わせ）
（参考）青少年育成国民会議「子どもを犯罪から守る緊急アピール」より要約

青少年育成者・団体表彰報告

◎11月1日（火）に三重県青少年健全育成・非行防止関係研修会において、児童・青少年の健全育成に長年ご尽力いただいた方々が表彰されました。（敬称略）

財団法人三重こどもわかもの育成財団表彰：（個人の部）大橋利一郎・戸川隆嗣・尾中弘明
(団体の部) 荒志

社団法人青少年育成国民会議表彰：（青少年指導者の部）片岡武造

青少年育成福祉車両「育成号」をご利用ください！

このたび(財)日本宝くじ協会の助成を得て、(社)青少年育成国民会議「青少年育成活動振興器材整備事業」の一環として、当財団にワゴン車が貸与されました。乗車定員は9名+車いす1名（電動昇降可）です。地域の青少年育成活動支援に無料でご利用いただけます（ガソリン代は利用者負担）。詳細・貸出申請等については、(財)三重こどもわかもの育成財団まで。



編 集 後 記

小学生の女子が命を奪われるなど、登下校中の子どもの安全について考えさせられる事件が続いています。地域の人が通学路に立ったりして、防犯に協力してくださる方たちには感謝すると同時に、大人の一人ひとりが自分にできることを心掛けましょう。各個人が小さなことでも、できることを積極的に行動に移したいですね。

子どもたちへ「自分の身は自分で守る」ために、何かあった瞬間に大きな声を出すなどを身につけてもらいましょう。また、親はインターネットや携帯電話をとりまく犯罪の怖ろしさを子どもたちに教えて「自分の身は自分で守る」知恵を伝えましょう。

『わかすぎ』編集長 中西智子